

「 「土砂災害」 から学んだこと 」

高知県 学校法人高知学園高知小学校 4年 ^{なかやま}中山 ^{ちひろ}智尋

この課題に取り組むきっかけとなったのは、家族会議におけるお父さんから聞いた「土砂災害」の話でした。

ちょうどその時、南海トラフ地震臨時情報の発表を受け、今年の夏の旅行を中止するかどうか家族で話し合っていました。

その中で、旅行先の安全が課題にのぼり、お父さんから「土砂災害」という言葉が出てきました。

例えば、高速道路が崩壊した大豊町の土砂災害、松山市の中心部、松山城がある山が崩れた土砂災害、広島県広島市北部で発生した土砂災害です。

私は、地震被害や津波被害といった言葉はよく耳にしますが、「土砂災害」という言葉は地震被害や津波被害といった言葉ほど聞かないなあという印象でした。

しかも、旅行先で「土砂災害」が起きていたと知って、そんなに起きるのか！と意外に感じました。

一緒にお父さんの土砂災害の話を聞いていた弟も「土砂災害」に関心をもち、お父さんから、高知県土木部防災砂防課「みんなで学ぼう なぜ？なに？土砂災害」という資料を印刷してもらって読んでいたので、私も、「土砂災害」について関心を持って知ろうと思いました。

資料は、土砂災害の種類などをイラストなどで丁寧に分かりやすく書かれてあり、土砂災害のイメージがわきました。

特に、高知県は森林面積率が全国一なので土砂災害が多いと知り、私の暮らす高知県は土砂災害と隣り合わせだと感じました。

そして、そんな気持ちで、県外へ出かける機会に、高速道路から大豊町の災害現場を見ました。山肌には、大きなフェンスがいくつも並んでいました。私自身、土砂災害の現場だと意識して見たのは初めてでした。

きれいに整備されていることに驚いた一方で、資料の写真で見た時よりも実際に起きた場所を見た時の方が、がけくずれのインパクトがとても強く感じました。

土砂災害の現場を通して、自分から土砂災害を知ろうという気持ちを持つことの大切さを知り、そうすることで自らの土砂災害に備えるといった行動にもつながっていくと感じました。

さらに、旅行先の広島県広島市では、「広島土砂災害から10年」というニュースが特集されていました。

広島土砂災害とは、平成26年8月豪雨土砂災害で、私が生まれた月からまもなくして起きた土砂災害でした。

そのニュースでは、土砂災害で親族を亡くした人のインタビューや被害地域の土砂災害対策と課題が報じられていました。その中で、私が気になった点は、全部で2点あります。

1つ目は、土砂災害で親族を亡くした悲しみは10年経っても決して消えることはないという点です。土砂災害は人の命を奪うものなので、それに備えることは、自分の命を守ることにつながります。

2つ目は、砂防ダムが数多く作られたので、「災害対策がしっかりしている場所」という認識が生まれ、災害後の移住者と災害時からの住民との間で、土砂災害に対する認識に温度差ができ、温度差の解消が新たな課題と報じられた点です。経験者と非経験者。これは、土砂災害に限らない話ですが、少なくとも土砂災害に対する共通認識作りは必要だと思います。なぜなら、高知県は土砂災害と隣り合わせで、いつ、どこで起きてもおかしくないのです。それに対する共通認識がなければ、土砂災害への備えが十分進まなくなると思うからです。

最後に、私は、「土砂災害」からいろいろなことを学びました。今後も継続していきます。